

2024 前期「公共哲学Ⅰ」

《中間テスト1：配点 20 点》

問：「**悪の凡庸さ**」・「**自分自身との対話としての良心**」・「**共通感覚に基づく道徳**」の三つの中から一つ選び、(1) その内容を説明し、(2) 自分の経験をふまえての感想を述べてください。

《中間テスト2：配点 20 点》

問：「**公論の形成による権力の抑制**」・「**システムによる生活世界の植民地化**」・「**二回路モデルにおけるメディアの重要性**」の三つの中から一つ選び、(1) その内容を説明し、(2) 自分の経験をふまえての感想を述べてください。

《期末テスト：配点 60 点》

A. 以下のそれぞれの問いについて、選択肢から最も適切なものを一つ選ぶ形で解答してください。

(1 問 6 点)

- (1) アレントの哲学においては、「政治とは何か」という問いと「人間の生はいかなるものか」という問いが不可分であった。それはなぜか。
1. 古代ギリシアにおける自由人を理想とするならば、直接に政治に参加しないような人間の生は、生きる意味のない無価値なものであることになるから。
 2. 人間がどのような動機や感情をもって生きているかを理解しなければ、政治や政策を通じて人々を適切に管理し、その安全と利益を守ることはできないから。
 3. 人間が常に他者との関係性の中で生きている以上、他者関係としての政治を考えると人間の生を考えることは同じ主題を扱う問いになるから。
 4. たとえば女性差別のように、人間は現代においても慣習や宗教に縛られて生きており、政治を通じてそれらの前近代的な制約を変えなければ、個々の人間の生を改善することはできないから。
- (2) アレントの考える「全体主義」の特徴はいかなるものか。
1. 暴力による脅しを用いて、国民を無理やりに悪事に加担させる
 2. イデオロギーを浸透させることで、国民の間の善悪の基準を変更する
 3. 民族や宗教といった価値を否定し、強固な官僚制によって国民を支配する
 4. 既存の道徳を相対化し、何をなすべきかという道徳の問いを各人の決断に委ねる

(3) ハーバーマスが述べた「市民社会の再封建化」とはどのような状況を指しているか。

1. ファシズムやナチズムを典型例として、市民社会の条件たる普通選挙や基本的人権がふたたび奪われるようになった。
2. 大衆消費社会の到来と社会福祉の拡大のために、民主主義でありながら人々が政治に無関心になり、ただ提示された政治を消極的に支持するばかりとなった。
3. 市場における競争の激化と格差の拡大を通じて、極端な貧困状態にある多数の人々を一部の富裕層が暴力的に支配するようになった。
4. 移民問題や領土問題が深刻化する中で、各国がかつての封建領主のように自国民だけを優遇する態度を取るとともに、積極的に隣国を侵略するようになった。

(4) ハーバーマスは現代の国際政治における民主主義についてどのように述べているか。

1. 各国の代表者は交渉の場面において自国民の要請に縛られて自由な議論を行えていないため、もっと代表者個人の意見表明を通じた話し合いが自由闊達に深められるべきである。
2. グローバル経済の主役たる大企業が各国の不揃いな法制度によって自由な経済活動を阻まれているため、統一的な法制度によって企業活動への制約を緩め、さらなる経済発展を促進すべきである。
3. 現状の EU は本来の意図を離れ、ヨーロッパの地域利権を守るための閉鎖的な同盟になってしまっており、より公平な国際政治のために解体すべきである。
4. 人々自身が国際的な問題について議論し、何かしらの意見を提示するような空間（グローバルな公共圏）が貧弱であるため、これを制度的に担保すべきである。

(5) ラクラウとムフのラディカル・デモクラシー論においては、選挙において人々が理性ではなく感情に基づいて投票することは、必ずしも不適切ではないことになる。それはなぜか。

1. 選挙とは、自分と利害や意見が一致する人を選ぶばかりでなく、感情的な同調に基づいて自分たちのアイデンティティを代表してくれているとみなす人を選ぶものでもありうるから。
2. 現代社会の複雑性を踏まえると、政治の専門家ではない一般市民は、不十分でしかありえない理性に基づくよりもむしろ感情や直感にもとづいて投票した方が適切な候補者を選べるから。
3. いまや政治にまつわるデマやフェイクニュースが多すぎるため、理性を働かせるのはそもそも無理であり、投票を方向づける要素はもはや感情しかあり得ないから。
4. 政治における「敵／味方」の対立は、理性を通じて話し合うだけではいつまでも乗り越えられないものであり、感情的な同調によってこそ融和できる可能性が開かれるから。

B. 以下のそれぞれの問いについて、選択肢から適切なものをすべて選ぶ形で解答してください。

(1問10点、完全正答のみ認める)

(6) アレントは哲学的な「思考」の重要性を強調したが、他方で誰もが日常的に思考して生きていくことは困難であるとも考えていた。それはなぜか。

1. 事前に十分な知識を得ることなしに考えても適切な思考とはなり得ないから。したがって、まずは誰しも思考するために高度な教育を受けなければならないとアレントは考えた。
2. 哲学的に思考することは政治に携わるエリートがなすべきことであるから。一般市民はむしろ経験から得た知識や「共通感覚」に基づいて行動する方が適切であり、そのほうがむしろ正しい意味で政治的な責任を果たすことにつながるとアレントは考えた。
3. 哲学的な思考は明確な答えが出るものではないため、日常生活を円滑に進める妨げとなるから。思考は適切な行為を促す指針ではなく、むしろ悪への加担を思い止まらせるものだといふアレントは考えた。
4. 思考することは確立された知識や常識を疑うことであり、周囲の人々との対立を生じさせるから。思考することはこの意味で、周囲からの圧力に従わせられることを逃れるための足場ともなるが、他方で日々の安寧を損なうものでもあるとアレントは考えた。

(7) ハーバーマスは 20 世紀の社会における道具的理性の拡大と、それに伴うコミュニケーション的理性の衰退を懸念していた。それはなぜか。

1. 人々が他人を自らの目的の実現の手段として捉えるようになり、共通の文化や相互の人格に対する尊重が損なわれてしまうから。
2. 親密な人々と一緒になにをするでもなく過ごす時間は「非効率的である」として否定されることになり、友情や愛情を育む時間が狭められてしまうから。
3. 利潤拡大を目的とする経済システムが社会の中心となり、秩序維持を目的とする法システムが軽視されることで、治安が悪化してしまうことになるから。
4. 政治そのものの合理化を通じて、政府はただ経済成長を実現する限りで是認されることになるため、ひとたび経済成長が鈍化するとその正当性が破綻し、政治が不安定化してしまうから。

(8) ラクラウとムフのラディカル・デモクラシー論においては、民主主義に含まれる「不和」や「不確実性」が、その危険性への自覚とともに肯定的に評価される。それはなぜか。

1. 民主主義における「不和」は、人々が敵と味方に分かれることに由来するが、敵と味方の線引きは固定的ではなく、したがって不和は新しい連帯の可能性が開かれたことの結果でもありうるから。
2. 民主主義における「不和」はあくまで一時的な意見の対立であって、話し合いを通じて意見を調整し合うきっかけとなり、そして民主主義は最終的には必ず不和を解消することができるから。
3. 民主主義における「不確実性」は政権交代に由来するものであり、現代では政党間の対立軸が明確である以上、その不確実性は政策をめぐる穏当な範囲内での協議に収束するから。
4. 民主主義における「不確実性」とは、民衆の集合的な決定が時として予測不可能なものになりうることを意味するが、この不確実性はこれまでにない政治を実現する余地を残すものでもあるから。

以上 (計 8 問)